

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇
事業所名	小規模多機能型居宅介護三 和	管理者	廣川 丈人

法人・事業所 の特徴	「住み慣れた地域で自分らしく安心して過ごせるよう生活(介護)をお手伝いします。」の理念のもと、各々がその人らしい生活が継続できるよう小規模多機能の特性を生かした支援に努めています。人に優しい町(まち)づくりの考えが、地域に根(ね)を張り、広がっていくようにとの願いを込め、月1回「まちのね」活動を開催しています。
---------------	--

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	1人	1人	1人	1人	0人	2人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価の理解を深める。なぜその評価が必要なのか理由を考え、根拠ある支援を実践する。	自己評価の項目を理解するために、項目ごとにかみ砕いた考え方を職員個々へ説明し理解を深める。 リスクマネジメントが問われる中で一つ一つの支援を考える場面を持つようにミーティングを通じ周知を行う。	項目に縛られるのではなく、自分の支援を振り返る材料として自己評価の項目理解に努めて欲しい。	事業所自己評価の内容を踏まえ、日々の支援内容の意味をしっかりと考え、根拠のあるケアを行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	サポートセンター三和と認識してもらえる入り口を作る。 まちのねにも入りやすい環境の検討を行い、作成に努める。	三和の入り口の看板について作成を依頼中。完成の見込みはまだ無い状況にて、簡易的ではあるが手作りの掲示で周知を図る。まちのねに関しては中止となっている。入り方も窓から入って頂きなど検討を行うが実践は出来ておりません。	インターホンの位置が分かりづらい。 事業所の看板が無いことも分かりづらく、薬局前の大きい看板も薬局の看板だと間違えてしまう。	看板の設置を進める。 事業所の存在を知って頂けるよう立て看板の作成を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	回覧板での案内を継続していく。 町内の行事への参加を行い、関係性を作っていく。	行事自体が中止となり回覧できる内容が無かった。町内の行事も中止となっている現状もあり、介入が難しくなっている。	地域性もあり、行事等の取り組みが難しいと思われる。 地域を近隣だけでなく、広いエリアで考えてみて、様々な地域の行事に参加していくのも良いのではないか。	地域の行事への参加を行う。 小学校を始め、これまでの交流の機会を振り返り継続した関わりを行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域包括支援センター、民生委員を始め運営推進会議参加者の皆様との情報共有を行い、ご利用者や地域の現状を把握し、対応策を検討していく。	今年度は開催自体は行っていないが、新たな委員の方よりご参加をお願いすることが出来た。直接お会いしての意見交換が出来れば尚良いと感じている。	実際に顔を合わせて話をする機会が減っている現状ではあるが、地域のニーズとして互いに共有している関係性が構築できれば良いと感じる。	地域の方の情報収集を行えるように地域の方、ご利用者の近隣の方、地域のサービス提供に係る方と関わりを持つ。
E. 運営推進会議を活かした取組み	他事業所の取り組みを共有し、良い点を学び自事業所の取り組みに活かす。	他事業所との直接的な関わりが出来なかった。今回の資料配布での開催についても、どのような資料があることで評価が行いやすいか検討するも、満足いくものではなかったと思われる。	開催自体が難しい状況だが、この状況だからこそ行える方法もあるのではないかと。(長岡市の管理者研修のように)工夫した情報共有、意見交換の方法を考えていく事も必要になって来る。	参加委員の方と情報交換を行い、事業所の取り組みに活かす。
F. 事業所の防災・災害対策	災害時、緊急時に活用して頂けるようにサポートセンターの使用方法を周知する。	避難訓練は予定通りに実践できた。本来であれば避難訓練に立ち会って確認して頂く予定だったが、実施することが出来なかった。書面での報告となる。	小規模を利用していない高齢者の避難時の活用が可能であるか検討できてよかった。三和近郊に実際に水害の被害にあっている方もいるので利用の周知も大事になって来るだろう。	災害時、緊急時に活用して頂けるようにサポートセンターの使用方法を周知する。